

標 題 : Anti-inflammatory effect of virgin olive oil in stable coronary disease patients:
a randomized, crossover, controlled trial
安定した冠動脈疾患の患者におけるバージンオリーブ油の抗炎症作用：
ランダム化、クロスオーバー、対照比較試験

著 者 : M. Fitó, et al. (スペイン Institut Municipal d'Investigació Mèdica
Unitat de Lípids i Epidemiologia Cardiovascular)

掲 載 誌 : Eur. J. Clin. Nutr. 62: 570-574 (2007)

要 旨 :

目 的 : そのフェノール化合物 (強力な抗酸化化合物) に差がある類似した 2 種類の
オリーブ油の炎症性マーカーに対する影響を、安定した冠動脈性心疾患の
患者で評価すること。

計 画 : プラセボ対処比較、クロスオーバー、ランダム化試験。

設 定 : Hospital del Mar および Institut Municipal d'Investigació Mèdica の心臓病
科 (バルセロナ)。

被 験 者 : 28 人の安定した冠動脈性心疾患の患者。

介 入 : 精製オリーブ油を使用した 2 週間のウォッシュ期間の後で、毎日 50ml のバー
ジンオリーブ油および精製オリーブ油を 3 週間ずつ連続して投与した。

結 果 : バージンオリーブ油介入後に、インターロイキン-6($P<0.002$)および C-反応性
タンパク質($P=0.024$)が低下した。
可溶性細胞間および血管の接着分子、グルコースそして脂質組成には、変化
が観察されなかった。

結 論 : 薬剤治療の追加介入として、バージンオリーブ油の摂取は安定した冠動脈性
心疾患の患者に有益な影響を与える可能性がある。

キーワード : オリーブ油、フェノール化合物、炎症、インターロイキン、冠動脈性心疾患
